



医療法人 厚生堂

長崎病院

広報誌

2026.05 vol.146

むつみ

当院の理念

私たちは良質で安心な医療の提供により、患者様や家族の皆様との信頼を築き、常に「思いやりの医療」を念頭に、地域社会に貢献します。

目次

健康寿命と骨粗しょう症……………1・2
地域の皆さまに、より安心な検査を……………3

お知らせ……………4

健康寿命と骨粗しょう症

内科医師 熊谷 和彦

近年の人口統計によると、日本は65歳以上の割合が25%以上を占める超高齢化社会であり、この傾向は今後もさらに強まっていくと予測されています。日本人の平均寿命は男女ともに80歳を超えています。しかし、「健康寿命」とは日常生活で継続的な医療や介護に依存しない期間のことをいい、日本人の現在の健康寿命は70歳～75歳です。「健康寿命」と「平均寿命」の期間の差が入院や介護を必要とする期間であり、約10年前後となっています。



自分で自立した生活ができない要介護状態となる原因には、脳卒中などの脳血管障害や認知症などがありますが、中でも転倒・骨折により寝たきり状態になる高齢者が増加傾向にあり、その背景にあるのが「骨粗しょう症」です。

したがって、「健康寿命」を延伸させる有効な方法の一つは、「骨粗しょう症」を早期に診断し治療することです。



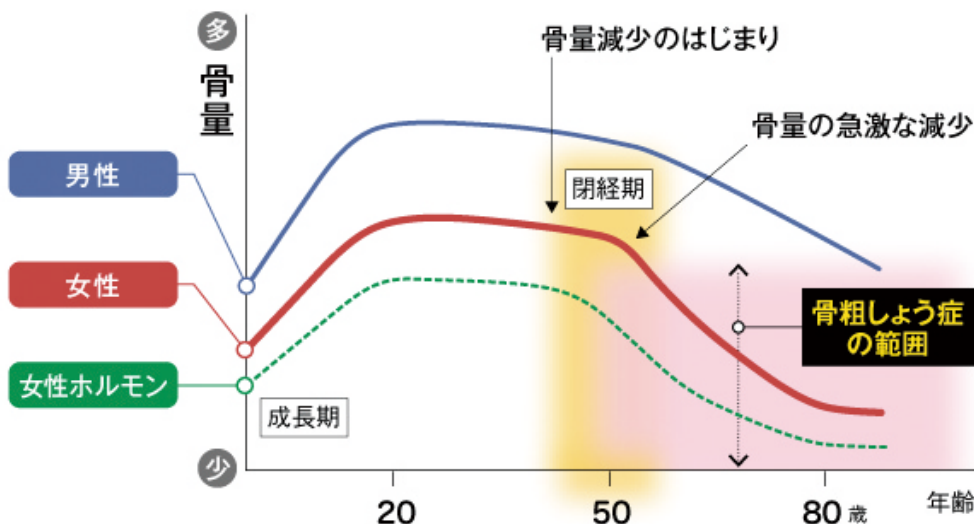
「骨粗しょう症」とは？

骨粗しょう症とは、一言で述べると「骨の強さが低下し骨折しやすい状態」のことです。

骨は、外観的に「硬くて無機質なもの」というイメージがありますが、骨も他の臓器と同様に生きた組織です。骨は生涯に渡り、古い骨は壊され(骨吸収)、同時に新しい骨が作られます(骨形成)。このような骨の新陳代謝は年齢とともに変化し、成人以降になると徐々に骨の強度が低下していきます(図)。特に、女性では、閉経に伴う女性ホルモンの減少により骨量が低下し骨粗しょう症になりやすくなります。これは女性ホルモンが前述の骨吸収を抑える作用があるためで、骨吸収と骨形成のバランスが崩れることが原因です。

その他の骨粗しょう症の原因としては、不適切な栄養・食生活・喫煙・飲酒などの生活習慣、運動不足、糖尿病、慢性腎臓病、慢性閉塞性肺疾患などの疾患やステロイド剤の使用などがあります。ステロイド剤は様々な疾患で使用される治療薬の一つですが、ステロイド剤による治療が長期に渡る場合には、早期より骨粗しょう症の治療が開始されます。

■図 年齢と閉経に伴う骨量の変化(概念図) (公益財団法人骨粗鬆症財団より転載)



骨粗しょう症の治療

骨粗しょう症の治療には食事療法、運動療法、薬物療法などがあります。食事では、カルシウム、ビタミンD、ビタミンKを含む食品（乳製品、小魚、大豆類、緑黄色野菜など）が推奨されます。



骨の形成には適度な骨への負荷が必要なため運動療法を行います。運動は散歩や軽い筋力訓練等で十分ですが、継続することが重要です。

薬物療法では、骨代謝改善薬としてビタミンD3製剤、骨吸収抑制薬として選択的エストロゲン受容体モジュレーター、ビスホスホネート薬、抗ランクル抗体薬、骨形成促進薬として副甲状腺ホルモン薬、抗スクレロスチン抗体などがあります（表）。最新の骨粗しょう症の治療ガイドライン

（2025年版）では、それぞれの薬剤について細かく評価されており、状況や病態に応じた適切な薬剤の選択が行われるための指針が記されています。

2000年以降、ビスホスホネート薬をはじめとする骨粗しょう症の新たな治療薬が次々と開発され使用されるようになりましたが、このような新しい骨粗しょう症治療薬はいつまで続けなければならないのでしょうか？これに対する明確な答えはないのですが、現時点では、これらの薬物は3～5年間程度の期間継続し、骨密度が改善していれば薬物療法を中止し、その後、定期的に骨密度を測定し減少した場合は治療を再開することが提唱されています。

また、骨粗しょう症は女性ホルモンとの関連で女性に多い疾患と思われがちですが、超高齢化時代においては男性においても同様に骨折リスクを増加させる疾患として注意が必要です。

■表 骨粗鬆症の治療薬



骨が壊される（骨吸収）のを抑制

ビスホスホネート薬	骨に蓄積して骨を壊す細胞に働き骨吸収を抑制します
選択的エストロゲン受容体モジュレーター	女性ホルモン作用により骨吸収を抑制します
抗ランクル抗体薬	骨を壊す細胞に働き骨吸収を抑制します

骨が作られる（骨形成）のを促す

副甲状腺ホルモン薬	骨を作る細胞に働き骨の形成を促します
抗スクレロスチン抗体	骨形成の促進と骨吸収の抑制に働きます

骨に必要な栄養素を補う

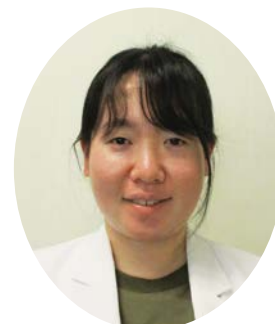
カルシウム薬	骨に必要なカルシウムを補います
活性型ビタミンD3薬	腸からのカルシウム吸収を助けます
ビタミンK2薬	骨形成の促進と骨吸収の抑制に働きます

新しい医師の紹介

井上 亜沙美 医師

4月より長崎病院に赴任いたしました。呼吸器系疾患を中心に内科全般の治療を担当します。患者さんに優しい診療を心がけます。よろしく願いいたします。

専門領域：呼吸器内科
資格等：内科認定医



X線装置が新しくなりました ～地域の皆さまに、より安心な検査を～

診療放射線科 室長 高橋 美樹



当院ではこの度、皆さまの健康を支える「目」ともいえる、放射線科のX線装置を一新いたしました。病院1階放射線室にある「X線撮影装置」と、病棟などへ移動して撮影を行う「移動式X線装置」です。

① 装置更新の背景

いつでも「確かな検査」を行うために…

これまで当院で使用してきた撮影装置は、長年にわたり多くの患者さんの診断を支えてきました。しかし、精密な医療機器には必ず耐用年数があり、経年劣化が生じます。

365日いつでも安心・安全な検査体制を維持するために、当院は最新の撮影装置への更新を導入いたしました。

② 日常の診療を支える「放射線室の撮影装置」



放射線室のX線装置は当院の日常診療において最も頻繁に使用されるものです。主に以下のような検査で活躍しています。

- 胸部、腹部撮影：肺の状態や心臓の大きさ、お腹のガスや結石の有無などを調べます。内科的な診断には欠かせない基本の検査です。

- 整形外科分野の撮影：骨折の有無はもちろん、関節の変形や骨の密度、脊椎の状態などを精細に描出します。新しい装置は、常に安定した条件下での撮影が可能です。

③ 現場へ駆けつける!「移動式X線装置」



もう一つの新しい主役が、移動式の撮影装置です。この装置の最大の特徴は、文字通り「装置が患者さんのもとへ行く」という点にあります。

通常、検査は設備の整った放射線室で行うのが理想的です。しかし、入院中で

寝たきりの方、救急搬送されてきた直後の方など、放射線室まで移動すること自体が大きな負担になってしまう場合、この装置で病棟や救急室へと向かい、撮影を行います。

④ 安全な医療を提供するための「ルール」

ここで一つ、皆さまにご理解頂きたい大切な点があります。

移動式X線装置は非常に便利ですが、当院ではその使用を「医師が移動困難と判断した必要最小限の患者さん」に限定しております。

これは、放射線防護（技師、周囲への安全）の観点からも、また装置の能力差の点からも、放射線室という管理が行き届いた専用の部屋で撮影することが最善だと考えているからです。私たちは常に「安全性」を最優先に考えて運用しています。

⑤ 放射線室スタッフの想い

どんな優れた装置であっても、それを扱うのは私たち人間です。放射線技師一同、新しくなった装置の特性を熟知し、丁寧でよりよい医療の提供を目指します。

新しくなった装置とともに、私たちはこれからも画像診断を通じて「来てよかった病院」を目標に地域の皆さまの健康と安心を支えてまいります。

感染防止対策に関する皆様へのお願い

- せきや熱などのかぜ症状のある方は、必ずご来院前に電話でご連絡をお願いします。
- 来院される患者さん・他全ての皆様、マスクの着用・手指消毒をお願いいたします。

入院患者さんへの面会について(感染状況により面会制限を設ける場合あり)

- 面会日時** 全日 13時～18時(退室18:30までに退出のこと) 予約は必要ありません。
- 面会条件**
- ・原則ご家族のみ数名で1回30分程度、各病室のベッドサイドで面会してください。
 - ・面会時は検温・不織布マスクの着用(患者さんも)をお願いいたします。
 - ・体調不良・発熱のある方は面会をご遠慮ください。
 - ・患者さんへの差し入れは必ず看護師にお申し出ください。また面会に来られた方の飲食はご遠慮ください。
- 面会手続き** ・各病棟のエレベーターホールで面会票をご記入の上病棟内へお入りください。(体温の記入が必要です。)

糖尿病教室のお知らせ

日時:5月16日(土)13:30～15:00
場所:長崎病院6階 会議室

- ① **糖尿病とは**
～糖尿病と言われたらどうする?～
講師 糖尿病専門医 古森 佑美
- ② **「フットケア」について**
講師 看護師 石田 美穂

お申込みが必要です。
ご希望の方は長崎病院外来受付まで
(TEL 082-208-5801)

外来担当医表

診療時間 午前 8:30～12:00 / 午後 2:00～5:30

		月	火	水	木	金	土
午前	内科 【第1診察室】	住田 (循環器)	院長	山下 (糖尿病)	住田 (循環器)	院長	大野 / 沖本 (糖尿病)
	内科 【第2診察室】	山根 (糖尿病)	古森 (糖尿病)	長崎 孝平 (腎臓)	長崎 孝平 (腎臓)	井上 (呼吸器)	住田 熊谷 山下/古森 (第1・3週) (第2・4週) (第5週)
	皮膚科・熱傷 【第3診察室】	蓮沼	鍋島	鍋島	鍋島	鍋島	森脇 坂本 (第1・3・5週) (第2・4週)
午後	内科 【第1診察室】	熊谷 (リウマチ/膠原病)	井上 (呼吸器)	古森 (糖尿病)	熊谷 (リウマチ/膠原病)	山下 (糖尿病)	長崎孝平 山本 (第1・3・5週) (第2・4週)
	内科 【第2診察室】	都甲 (神経内科)	三森 (神経内科)		高橋 (循環器)	* 箱田 (リウマチ)	
	皮膚科・熱傷 【第3診察室】	浪花	* 菅 / 橋本	* 佐々木 / 松尾 / 岡本	齋藤	金本	休診

・都合により担当医が変更する場合がございます。 ・〈 〉は専門分野です。 ・*診察週が変動しますので事前にお問い合わせください。

2026年5月1日現在

長崎病院のめざす〔地域医療〕〔包括医療〕

長崎病院

- ・内科(循環器・腎臓・呼吸器・糖尿病・リウマチなど)
 - ・皮膚科・熱傷センター
 - ・リハビリテーション(理学療法・作業療法・言語療法)
- ☎082-208-5801(代)

長崎病院ヘルスケアセンター

- (人間ドック・健診施設機能評価認定優良施設)
- ☎082-208-5791(代)
- ・訪問看護ステーション ながさき
- ☎082-503-3236(担当:平本)

みささ文化ビル

- ・居宅介護支援センター
- ☎082-230-8181
(担当:滋野)

ほほえみの郷

- ・グループホームあいあいホームながさき
 - ・グループホームあいらいホーム ながさき
 - ・デイサービスセンターほほえみながさき
- ☎082-532-6636(担当:荻原)
☎082-532-6630(担当:安永)

基本方針

1. 患者さんの生命の尊厳と人権を尊重します
2. 常に新しい医学・医療の研鑽に励み、良質な医療サービスに努めます
3. 明るく清潔で快適な医療施設を整えます
4. 思いやりの医療・看護・介護を目指します
5. 健全な経営を基盤とし、患者さんや家族の皆様及び職員に満足される医療機関となるよう努めます
6. 可能な限り患者さんのライフスタイルにあった自立した生活ができるよう努めます

患者さんの権利

医療法人厚生堂は患者の権利に関する「リスボン宣言」にのっとり、信頼される医療の提供を目指します。

1. 個人の尊厳を守るための支援を受ける権利
2. 良質で安全な医療を平等に受ける権利
3. 病状や治療について十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療の選択について自らが決定する権利
5. 診療に関わる個人情報保護を受ける権利
6. 診断や治療について、他の医師の意見を求める権利(セカンドオピニオン)
7. 健康増進・疾病予防を行うための健康教育を受ける権利

医療法人 厚生堂

長崎病院

〒733-0013 広島市西区横川新町3番11号
[JR横川駅 南口より西へ300m、西区民文化センター向い]

TEL 082-208-5801(代)
FAX 082-208-5821

駐車場完備

診療時間 午前8時30分～12時/午後2時～5時30分
休診日 日曜日・祝祭日

http://www.nagasaki-hp.jp

長崎病院
5F・訪問看護ステーション ながさき

みささ文化ビル
2F
・広島市中広地域包括支援センター
・居宅介護支援センター

ほほえみの郷
4.5F
・グループホーム あいらいホーム ながさき
1F
・デイサービスセンター ほほえみながさき